

2023年の世界経済の成長率見通しを上方修正

～向こう2年の成長率は、先進国での減速を背景に、3.0%にとどまる見通し～

2023年の見通しは0.2ポイントの上方修正

IMF(国際通貨基金)は7月25日に最新の世界経済見通しを発表し、2023年の世界のGDP成長率について、同年1-3月期の先進国でのサービス消費の堅調を主因として、今年4月時点の見通しから0.2ポイント上方修正しました。ただし、先進国を中心とした景気鈍化を想定し、向こう2年の世界の成長率はいずれも3.0%と、2000年～2019年の平均の3.8%や、2022年の3.5%を下回ると見込んでいます。なお、新興国については、全体としては安定成長が見込まれているものの、地域によって状況はマチマチとされています。

世界経済は2023年1-3月期に底堅く推移

2023年の見通しのうち、先進国では、消費の伸びが堅調だった米国や、サービスと観光が堅調だった、イタリアおよびスペインが上方修正された一方、製造業が低迷したドイツは下方修正されました。日本の場合は、コロナ禍で抑えられていた需要の持ち直しを背景に、上方修正されました。

新興国では、インドが投資拡大、ロシアが大規模景気対策、ブラジルが農業生産の増加とサービス業への波及効果、メキシコがサービス業の回復や底堅い米国の需要などから、上方修正されました。

IMFの世界経済見通し(実質GDP成長率)

<白背景部分は2023年4月時点の予測との比較(%ポイント)>

	2021年	22年	23年予測	24年予測
世界	6.3%	3.5%	3.0%	0.2
先進国	5.4%	2.7%	1.5%	0.2
米国	5.9%	2.1%	1.8%	0.2
ユーロ圏	5.3%	3.5%	0.9%	0.1
ドイツ	2.6%	1.8%	▲0.3%	-0.2
日本	2.2%	1.0%	1.4%	0.1
英国	7.6%	4.1%	0.4%	0.7
新興国	6.8%	4.0%	4.0%	0.1
アジア	7.5%	4.5%	5.3%	0.0
中国	8.4%	3.0%	5.2%	0.0
インド*	9.1%	7.2%	6.1%	0.2
中・東欧	7.3%	0.8%	1.8%	0.6
ロシア	5.6%	▲2.1%	1.5%	0.8
中南米ほか	7.0%	3.9%	1.9%	0.3
ブラジル	5.0%	2.9%	2.1%	1.2
メキシコ	4.7%	3.0%	2.6%	0.8
中東・北アフリカ	4.0%	5.4%	2.6%	-0.5
サハラ以南のアフリカ	4.7%	3.9%	3.5%	-0.1
南アフリカ	4.7%	1.9%	0.3%	0.2

*年度ベース(上記各年の4月から翌年3月まで)

(出所:IMF「World Economic Outlook Update, July 2023」)

●上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

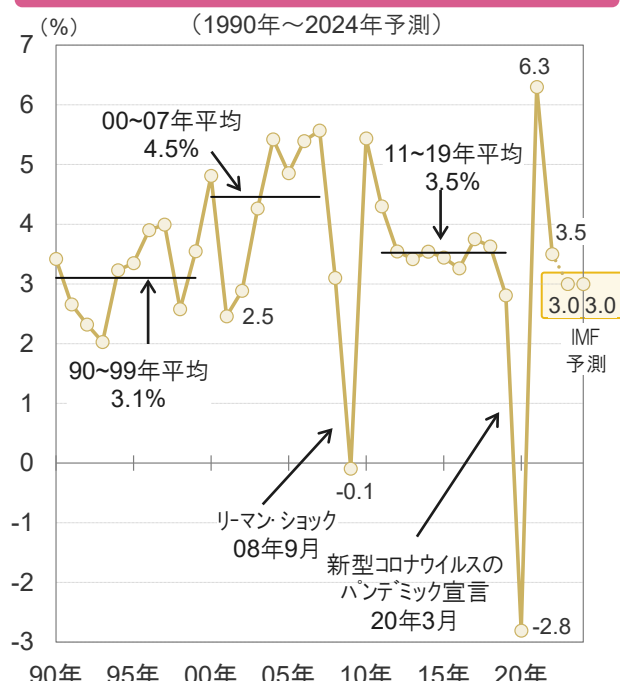
なお、WHO(世界保健機関)が新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を今年5月に解除したほか、サプライチェーン(供給網)についても、コロナ禍前の状況にほぼ戻ったとされています。しかし、金融引き締めなどの影響により、先進国の製造業を中心に、経済活動が勢いを失いつつある兆しが強まっています。また、世界のインフレは2024年にかけて鈍化する見通ししながら、全体として、物価目標がある国の内、2023年は96%で、2024年は89%で、インフレ率が目標を上回ったまま推移すると見込まれています。

インフレ長期化や中国の回復減速がリスク要因

中国については、不動産不況の影響で予想を下回った投資を、予想以上に好調だった純輸出が一部補ったとして、今回、見通しに変更はありませんでした。しかし、世界経済の減速が予想される中、純輸出の寄与度は今後、低下する可能性があります。IMFは、世界経済見通しの下振れ要因として、高インフレや金融引き締めの長期化、新興国の債務問題、地政学や気象面でのショックなどに加え、中国の景気回復の減速を挙げています。

また、IMFのチーフエコノミストは、世界経済の5年後の成長率について、3%付近かそれをやや上回る程度にとどまるとの見解を示しています。

世界の実質GDP成長率の推移



(IMFのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)